

標準作型

○印・播種(種まき)

□印・収穫

作 型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
露 地				○	-----	○						

栽培のポイント

肥料が多すぎると莢着きや実入りが悪くなるので適正に施肥する。
 収穫適期が5日程度と短いので、播種を数回に分けて、連続収穫できるようにする。
 トンネル栽培をしない露地栽培では、4月中旬以降に播種する。

品 種 4月上旬中旬播種：サッポロミドリ(雪印) 極早生、サヤムスメ(雪印) 中早生
 4月下旬～5月中旬播種：湯あがり娘(カネコ) 中早生、恋娘(雪印) 中早生など

育 苗 育苗を行うことで生育時に徒長しにくく、鳥害を受けない利点がある。また、
 そろって発芽させることができるので、生育がそろろう。床土には無病の畑土を用い
 無肥料とする。また、早まきの場合はトンネル内で育苗をする。

- ① 育苗箱に床土を厚さ6センチくらい詰め、播種の4日前に十分かん水した後、新聞紙やビニールで覆い、トンネルの中で暖めておく。
- ② 種まきは、約4センチ間隔(育苗箱では15粒×8列)で行う。覆土は1～2センチ程度とし、再度新聞紙やビニールで覆いトンネル内で管理する。(発芽の適温は25～30℃)
- ③ 播種後5～7日に出芽を始めるので、種子が床土を持ち上げた時点で、新聞紙等を取り除きかん水する。発芽後の温度管理は日中25℃、夜間15℃を目標とする。子葉展開後は節間が伸びやすいのでかん水は控えめとする。
- ④ 定植適期は、初生葉が展開した頃で、育苗日数は15～20日くらい。

畑の準備 定植1ヶ月前に1a当たり苦土石灰(12kg/a)、堆肥(100kg/a)を施用する。
 元 肥 1a当たり窒素量で1kg程度を目安に施用する。
 前作の残肥がある場合には、減らすか、無肥料にする。直まきは徒長しやすいので
 移植栽培に比べて2割程度減らす。

(1a当たり使用量)

肥 料 名	日の本化成12号	施 肥 時 期
元 肥	34kg	播種前

定 植 移植栽培の場合、条間60センチ、株間15センチの1株1～2本植えとする。
 4月中旬までの移植はトンネル・マルチ栽培とする。

播 種 (種まき) 直まきの場合は、条間60センチ、株間15センチの一箇所2粒まきとする。播種後は、鳥
 害防止のため不織布や白寒冷紗をべた掛けし、発芽時の鳥害防止を徹底する。
 4月上旬～5月下旬頃までが播種時期となる。

病虫害防除 カメムシ類は花が咲き始めた頃から飛来するので、発生状況を観察し防除する。ダ
 イズサヤタマバエが寄生すると落莢したり、不稔、奇形莢となる。開花終期から種
 実肥大初期に薬剤で防除する。

中 耕 土寄せ 無マルチ栽培では、定植後30～40日位で本葉が3枚時と6枚時に雑草防止や倒伏
 防止のため、管理機などで除草を兼ねて中耕及び土寄せを行う(最初の土寄せは子
 葉が隠れる程度)。

収 穫 開花後、35～40日を目安に、莢が退色しないうちに収穫する。盛夏期は過熟になり
 やすいので適期収穫を心がける。